トピックス

伊豆東岸定置網にクサヤモロ特異的入網

夏季に伊豆東岸定置網で漁獲される魚といえば、ゴマサバやヤマトカマスが挙げられますが、今年は7月以降、クサヤモロ（市場では“シロムロ”と呼ばれている）がまとまって入網しています。

クサヤモロはアジ科ムロアジ属に属し、細長い紡錘形の体型と体側中央に走る青色縦帯が特徴です。伊豆諸島では“くさや”の原料として本種が珍重されており、伊豆地域でも干物などの加工原料として使われています。

平年値（1997～2018年の平均値）を見ると、伊豆東岸定置網におけるクサヤモロの盛漁期は10月前後（図1）で、近年はほとんど漁獲がありませんでした（図2）。今年は7月より漁獲量が増え始め、8月には22トンと、同月の平年値（0.5トン）を大きく上回り（48.4倍）、9月以降も平年値を大きく上回る漁獲が続いています。主な漁場は7月が北川、赤沢、8月が北川、赤沢、川奈、9月が北川、赤沢、伊豆山と、月日の経過に伴い、伊豆半島中～南部から北部に漁場が変化する傾向が見られました。魚体は尾叉長20～25cm主体でした。

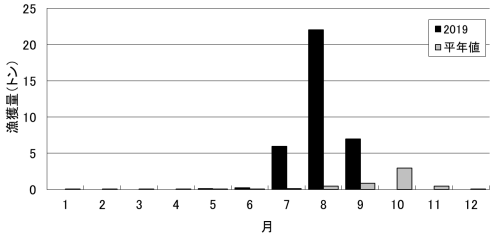

図1　月別漁獲量の推移

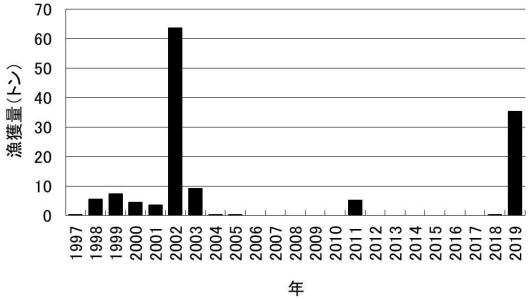

図2　年別漁獲量の推移

この特異的入網の要因としてまず考えられるのが黒潮大蛇行です。前回（2005年）の大蛇行時、クサヤモロの漁獲量は僅かであり、大蛇行だから漁獲量が多いとは一概には言えませんが、今回の大蛇行は前回よりも長期であるため、大蛇行が長期化したことでクサヤモロが伊豆東岸に来遊しやすい海況になった可能性も考えられます。クサヤモロに限らず、その他の魚種でも特異的入網の可能性がありますので、今後も日々の水揚状況や海況の変化を注視したいと思います。

（鈴木勇己）